

## 第6期古賀市介護保険運営協議会（平成28年度第3回）会議録

標題の件について、下記のとおり実施したので、古賀市介護保険運営協議会規則第6条に基づき会議録を作成する。

1. 日時 平成28年11月28日（月）19時00分から21時00分まで

2. 場所 サンコスモ古賀 203・204研修室

3. 出席委員 甲斐信博 会長、福岡綱二郎 副会長  
大久保康裕 委員、高田武代 委員、檜山信夫 委員  
酒井康江 委員、京谷千恵子 委員、渡部典子 委員  
内田理加子 委員、古川真澄 委員

### 4. 議題

- (1) 古賀市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成27年度）の進捗状況
- (2) 平成28年度介護予防・日常生活支援総合事業の進捗状況について

### 5. 報告

- (1) 次期計画策定に係るアンケートについて

### 6. 資料

- 【資料1】第6期計画の27年度進捗状況概要
- 【資料2】第5期計画（平成24～26年度）と27年度の実績値（主要7指標）
- 【資料3】第6期計画の27年度事業別進捗状況
- 【資料4】平成28年度 介護予防・日常生活支援総合事業の進捗状況
- 【資料5】訪問型サービス事業所一覧(H28.9.30)
- 【資料6】通所型サービス事業所一覧(H28.9.30)
- 【資料7】次期計画策定に係るアンケートについて

### 7. 署名（規則第6条第2項）

会長	印
会長の指名する出席委員	印

## 8. 議事の概要

### (1) 古賀市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成27年度）の進捗状況

介護支援課より、古賀市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の平成27年度の進捗状況を説明。〈資料1・2・3〉

#### 【質疑】

- 「資料1」の実績値について、計画を見直さないといけない重大な値はなかったか。  
⇒ない。想定の範囲内である。
  
- 「資料3・55ページ・⑤」の特定保健指導の対象者は何人か。指導者の職種と人数、どのような取組を行っているか。  
⇒対象者は把握していない。指導者は管理栄養士、保健師、看護師が7～8名で対応している。積極的な支援と動機付け支援を行っている。動機付け支援は、情報提供、個別相談や家庭訪問、生活習慣の改善などである。
  
- 「資料3・63ページ・②」の高齢者外出促進事業の平成27年度実績値は目標値より大幅に上回っている。平成28年度もさらに増加すると考えられるが、予算は大丈夫か。  
⇒以前は景品を全員に渡していたが、景品の数量を固定し抽選としたことにより、予算は安定している。
  
- 「資料3・63ページ・②」の高齢者外出促進事業の平成28年度、平成29年度の目標値を修正する必要があるのではないか。  
⇒計画書上の修正はしていないが、内部では修正をしている。
  
- 「資料3・70ページ・③」のもの忘れ相談ルームの平成27年度の実績値は、目標値より上回っているが、背景はどのようなことが考えられるか。  
⇒健康福祉まつりへの参加や千鳥苑での実施、外出促進事業のイベントに含めていることなどが影響していると考えられる。
  
- 「資料3・70ページ・⑤」の認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業の平成27年度の実績値は、目標値より上回っているが、背景はどのようなことが考えられるか。  
⇒ケアマネジャーに対し、事業の紹介を行い、必要な方に紹介してもらうように協力を依頼した。その結果、ケアマネジャーが協力して頂けたのではないかと考えている。
  
- 「資料3・68ページ・③」の在宅医療ネットワークは知らない人が多い。病院で勧めてはどうか。  
⇒十分に浸透できてはいないと考えている。出前講座等を活用し、周知していきたい。

○安否確認緊急通報システムは、持ち歩く必要があるのではないかと。  
⇒緊急通報システムは、利用者発信だけではなく、システム運営側からの呼びかけもあるため、必ずしも持ち歩く必要はない。呼びかけは、反応がなければ広域に音を拾い、異常がないかを確認している。

○安否確認緊急通報システムの呼びかけは、どのぐらいの頻度で行うのか。  
⇒月に1回である。

○「資料3・72ページ・①」の継続対応件数および権利擁護相談件数は、平成27年度実績値が計画値よりも少なくなっている。どのようなことが考えられるか。

⇒継続対応はシステムを用いて集計している。以前は、新規相談から継続対応とシステムに入力することを多くしていたが、現在は新規相談から通常対応と入力することを多くするように変更したため、継続対応が少なくなっている。

権利擁護相談件数は、平成26年度の実績が多かったと考えており、平成27年度が少なかったとは考えていない。

○「資料3・72ページ・②」の虐待相談件数の平成27年度実績が、平成26年度と比較し増えているが、何か要因があるか。

⇒周知等したわけではないが、結果として増加している。

○「資料3・70ページ・④」の認知症ジュニアサポーター養成講座を中学生にも継続して行うべきではないか。

⇒平成27年度に1中学校で実施できた。しかし、授業のカリキュラムが埋まっており、なかなか実現しない。今後も中学校への声かけはしていく。

また、認知症サポーター養成講座を家族で受講したいとの意見も頂いており、都合の良い日曜日に少人数でも受講可能な養成講座を開催する。

○認知症サポーター養成講座を受講したいと希望した家族は、どんな家族構成か。

⇒母と娘の二人で受講したいとの希望だった。

○「資料3・80ページ・⑨」の生活支援ハウスについて、今後の運営をどのように考えているか。

⇒在宅サービスが充実してきており、生活支援ハウスの必要性が減ってきていること。生活支援ハウスの目的である不安解消・見守りだけの対応では不十分な困難な相談が増えてきている。これらのことから、平成30年度からどのようにしていくか検討する必要がある。

○在宅医療ネットワークの新規登録者は増えているのか。

⇒手元に資料がないため、増えているかどうか回答できない。

○公民館活動に地域間格差があるとの見解であるが、格差解消はどのように行うか。  
⇒地域状況に合わせたアプローチを行う必要がある。例えば、運動、音楽、リハビリなどの活動のうち、地域で何が受け入れられるかを検討している。老人会・福祉会へアプローチすることで活動につながったこともある。

○公民館活動に男女の参加格差はあるか。  
⇒女性が多い。

○公民館活動が農村部で少ないことについて、農村部の女性は遠慮し、参加しないなど理由はあるか。  
⇒ないとは言いきれない。しかし、農村部では農業などで生涯現役であることも要因ではないだろうか。

## (2) 平成28年度介護予防・日常生活支援総合事業の進捗状況について

介護支援課より、介護予防・日常生活支援総合事業の平成28年度進捗状況について説明。  
〈資料4・5・6〉

### 【質疑】

○緩和した基準によるサービスとはどういうサービスか。  
⇒人員・施設の基準を緩和したサービスのことである。緩和の基準は国が示しているが、どの程度緩和するかは市で定めている。

### 【意見】

○総合事業に対するケアマネジャーの理解は十分でないため、説明会等を今後も実施してほしい。  
⇒実施していく。

## 9. 報告の概要

### (1) 次期計画策定に係るアンケートについて

介護支援課より、次期計画策定に係るアンケートについて修正点等を説明。〈資料7〉

### 【質問・意見】

○特になし

## 10. その他

- ・議事録について  
署名については甲斐会長と酒井委員にお願いします。

- ・次回、第4回開催日程について  
平成29年1月23日（月）の予定
- ・第5回開催日程について  
平成29年3月17日（金）の予定

以上